

佐藤仁・東商渋谷支部会長

開口一番、「世界へノ渋谷の街をアピールしたい。それには先人たちの考えていた“大渋谷構想”を前進させたい」と抱負を語るのは昨年11月に東京商工会議所渋谷支部会長に就任した佐藤仁氏（東急レクリエーション相談役）だ。もちろん街の回遊性を保つことも重要で、前会長の多田修人氏も大切にしていた“裏渋谷”や“奥渋谷”を忘れないという。東商渋谷支部の会長職は東急レクリエーションの故・佐藤進会長から日本システムウェアの多

田修人会長、そして昨年11月から再び東急レクの佐藤仁会長に引き継がれた。その佐藤仁氏は東急レクリエーションの社長を7年、会長職を2年、今は相談役を務める。65歳。経理畑が長くどちらかというといふ几帳面な性格。佐藤仁・現会長は、故・佐藤進氏に誘われて東急レクの社長に就任。この時、吉田茂元総理が好んだ「吞舟魚不遊支流」の漢詩を進氏自筆の「掛け軸」として贈られ、現在までそれを受け継いでいる。



インタビュー トッピン

ベンチャー企業が集積する「渋谷」

“大型ビル”が不足

開発で“IT企業”を誘致

「東商渋谷支部の第1期は、IT企業を誘致するベンチャー企業は、企業の成長により、短期間で大勢の従業員を雇える大企業へと変貌します。結局、渋谷の街は、こうして事業を続けていた大企業を抱えてい

△プロフィール▽昭和26年7月生。務取組、18年専務取締役を経て1991年、宮城県出身。昭和50年立教大学経済学部卒業後、東京急行電鉄入社。平成7年東急レクリエーションに入社。9年取締役、14年常務取締役に就任。

渋谷、新宿、池袋と連携

都市間競争の時代ではない

「先頃よく聞かれた東商渋谷支部第4代会長の佐藤仁氏は、渋谷・新宿・豊島・有明の3支部が連携して、都心地域に負けない副都心ゾーンを作りたいと話されています。この点をどうのうに思いますか。

佐藤 まさしく、そう思います。東商渋谷支部は、東商渋谷支部第4代会長の佐藤仁氏が、渋谷・新宿・豊島・有明の3支部が連携して、都心地域に負けない副都心ゾーンを作りたいと話されています。この点をどうのうに思いますか。

「奥渋谷」は自然に生まれた！

開発に求める“人間らしさ”

「奥渋谷」は自然に生まれた！
「奥渋谷」は自然に生まれた！
「奥渋谷」は自然に生まれた！

日本一訪れたい街・渋谷へ

日本一訪れたい街・渋谷へ
日本一訪れたい街・渋谷へ
日本一訪れたい街・渋谷へ

「出会い」を大切に生きた。東商渋谷支部会長、渋谷防犯協会会長も務めた。渋谷人。東急レクリエーションでは社長を9年、会長を5年務めた企業人。メトロ副都心副都心の連携を提唱



佐藤進氏逝去
副都心の連携を提唱

佐藤進氏はこの2月10日午前9時に永眠。84歳だった。お別れ会は5月に開かれる予定。東急グループ総帥の五藤慶太、五藤昇氏に出身。中央大学法学部出身。平成6年、東急レクリエーション社長、氏は駆け出しの頃に慶太氏に誘われて入社。15年に会長、以降、相談役、顧問に活躍。